

| 第5回 1班の意見 | |
|------------------------|--|
| 【減額・免除の対象(利用者)】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「減免」をどうするか考える前に「基本料金」の設定を行った方がいいかも？(または同時並行に) ・広く浅くとり、料金を安くする。 ・市の行事も有料。(成人式も有料) ・入場料金5,000円？を目途に使用料金を変える。<割増> ・有料公演と無料公演で料金を変更する。 ・学生、教育、育成に関係するような事、学生主催は減額にしてあげて欲しい。 ・市の主催は免除？但し、そのイベントについて評価を検討委員が行い、意見を言えるシステムを。 ・形だけの市の主催で運営が市民の場合は？？NG？50%？ ・小田原市の団体、西湘地区の団体(ただし小田原市民がいること)の割引。 ・市内近隣の企業に部屋をネーミングライツにしろ、利用を割引する。 |
| 【減額・免除の範囲】 | <ul style="list-style-type: none"> ・料金の設定を低くして減免の不正さのような物を排除する。 |
| 【減額・免除に代わる制度】 | <ul style="list-style-type: none"> ・減額・免除に関する市民委員を含めた検討委員会の設置。(この決定により可否を決める) ・公募・審査。 ・公募。福祉的な配慮。 ・公募制度は事業内容で判断されると良いと思う。 |
| 【減額・免除の判断基準の考え方・評価の方法】 | <ul style="list-style-type: none"> ・使用料金の定期的な見直し。(市民委員を含む委員会の設定) ・指定管理制度で上限設定し定期的に下げられるかどうかを見返す。 ・「減免」は、100%、50%、0%？それ以外の基準はどうか？(メンドウなのか？) ・「評価」の方法は、その「イベント」の内容、目的、ターゲット、料金、etcによって、ケースbyケースで判断。 |
| 【その他の検討課題】 | <ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル、準備の時は減額したほうが良い。 ・主催者が誰か？イベントの内容は？入場料金の額は？etcによって、考えるべき...？まずは、基本料金ありき？ ・物販(CD他)をする場合の料金設定。使用料金変更 or 販売のための料金など ・出演者(音楽系)のパッケージソフト(CD etc)を物販した方が良いが、その条件を設定する！(マージン？)客へのサービスのひとつ。 ・年度毎に全体のシステムを見直す委員会を市民委員を含めて設置する。 ・指定管理者にした場合(仮に)その評価を市民も利用者もできるように。 ・どんな公演に入場しても介助者共、招待を何人ももうけるように促してもらいたい。 ・入場料は公共が市民団体、営利団体にヘルパー共に行う場合や障害者、親子共2人で一人分など配慮を促してゆく。 ・芸文創造ホールに所属する団体(将来)への利用料金の検討 ・現在ある「条例施行規則」をどう叩いて改善していくか？大問題！？ |
| 第5回 2班の意見 | |
| 【減額・免除の対象(利用者)】 | <ul style="list-style-type: none"> ・減免いっさいなし 企画者負担=使用者 ・活動支援の一助 減免=小田原市の数少ない文化活動支援 ・営利利用× ・創造センターの活動計画立案が上位概念。計画案の中で減免項目を入れる。小田原市が財政援助する活動は何か？(団体支援ではなく)その活動支援のセットの中に減額を含める。文化創造計画が先。=文化創造ホールなので「創造」に関する事業 育成支援、文化創造支援 ・文化利用、教育利用、福祉利用 ・減免 無料利用。利用者を選ぶシステムをつくる。(逆発想) ・独立会計としてもらいたい。 |
| 【減額・免除の範囲】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「使ってもらうこと」「創造的/育成的活動であること」 |
| 【減額・免除に代わる制度】 | <ul style="list-style-type: none"> ・減免以外 文化支援の方法を提案していく。 ・他の形で企画者に文化政策を。 |
| 【その他の検討課題】 | <ul style="list-style-type: none"> ・企画 実行 評価のシステムを取り入れていく。 ・障害者と介助者は半額にしてほしい！(国立劇場ではやっている) |